学習院女子短期大学紀要　第32号　1994.12.25

衣生活行動の合理化とフォーマルウェア
――レンタル行動の視点から――

内　田　直　子

1. はじめに

実生活において，生活行動現象は日々変化している。その変化の一つの側面を，衣生活における合理化という面から検討してみた。

今回は，人間の生活で最も社会規範を受け，変化しにくいものに焦点を当ててみることによって，一層その「変化」というものの動きが顕著になるのではないかと考え，社会規範の影響を強く受ける社会儀礼を中心に，その媒体としてフォーマルウェアを取り上げた。

現在の日本では和服と洋服の二つの衣服文化を共有しているため，両方を捉えて行かなければならない。本来，フォーマルウェアというものは，日本語では「礼服」「礼装」といわれ，『儀礼を重んじた服装』のことである[1)]。その歴史も日本では奈良時代にも及ぶ。また，礼服はそもそも支配階級しか着用できないものであったことは，当然着用できることは大変価値のあることである。洋服のフォーマルウェアも，ヨーロッパにおいて同様な発想から生まれている[2)]。ところが，近年，レンタル産業が発達し，例えば卒業式に袴を借りる，成人式に振り袖を借りるというように，自ら衣服を所持せず，その「社会の儀礼」を全うしようとする現象が公にみられる。そこで，フォーマルウェアとレンタル行動との関係から，生活の合理化への過程を本稿では問題とした。

「ものを貸す店」は以前からあったが，本格的なレンタル（リース）産業としての起こりは，ここ30年足らずである[3)]。それは衣服にも言え，結婚衣裳

などの貸衣裳屋でなく，レンタルブテッィクのように一般向けのサービス産業として捉えられるようになったのも最近のことである。また業界の出入りも激しく，大規模な調査はほとんどなされていない。

本研究は，衣服とレンタルの関係から衣生活の合理化を考える一つの基礎資料を得ることを目的とする。

2. 研究方法

(1) 調査対象および時期

東京都内にあるA女子大学および付属幼稚園の学生・園児の母親を対象に，質問紙法によるアンケート調査を実施した。

分析の対象者数は229名である。また，調査実施時期は1992年10月である。

(2) 調査内容

①年齢，職業，住宅の間取りなどの基本属性，②フォーマルウェアに関する意識，③フォーマルウェアのレンタル及び収納状況についてである。

回答方法はすべて選択肢とし，フォーマルウェアに関する意識については，27項目各々についてSD法による4段階評定を用いた。

なお，ここでの「フォーマルウェア」とは，結婚式，葬式，七五三，入卒式，成人式に用いる洋服，和服とし，また，親族，知人，貸衣装店などから借りることを「レンタル」とした。

(3) 分析方法

単純およびクロス集計とそれに対する統計的検定を行った。統計解析には，本学のパーソナルコンピュータ FUJITSU FMR-70HD 及び FMR-50LX 上で統計解析パッケージ SAS を使用した。

3. 調査対象者の概要

回答者の概要は表1に示す。

(1) 回答者の年齢

30代が44.6%を占め，40代の38.4%がそれに続く。以下，既婚女性を世代

表1　調査対象者の概要

(1)年齢

20 歳 代	5.2%(12人)
30 歳 代	44.6%(102)
40 歳 代	38.4%(88)
50 歳 代	11.8%(27)
計	100.0%(229)

(2)就業形態

	ヤング世代 (20～30歳代)	シニア世代 (40～50歳代)
専業主婦	86.8%(99人)	42.6%(49人)
常勤	1.8%(2)	20.9%(24)
パート	6.1%(7)	20.0%(23)
自営	1.8%(2)	12.2%(14)
その他	3.5%(4)	4.3%(5)
計	100.0%(114)	100.0%(115)

(3)住まいの間取り

	ヤング世代 (20～30歳代)	シニア世代 (40～50歳代)
2DK 以下	16.7%(19人)	5.2%(6人)
2LDK, 3DK	56.1%(64)	13.1%(15)
3LDK, 4DK	17.5%(20)	21.7%(25)
4LDK, 5DK	5.3%(6)	27.8%(32)
5LDK 以上	4.4%(5)	32.2%(37)
計	100.0%(114)	100.0%(115)

別に，20～30歳代を「ヤング世代」，40～50歳代を「シニア世代」と区別する。

(2)　就業形態

「ヤング世代」は子育てのため専業主婦になっているのか，専業主婦の割合が86.8%を占め，一方「シニア世代」では専業主婦が42.6%，常勤・パート・自営などの職業に就いているのが53.1%で，子供に手がかからなくなってきたための結果と考えられる。

(3) 住まいの間取り

「ヤング世代」では，団地住まいが多いためか，2 LDK が過半数を占め，3 LDK と 2 DK がそれに続く。しかし，「シニア世代」は間取りの大きさに比例して，その人数の割合も大きく，「ヤング世代」とは対照的である。

4.「レンタル」行動の実際

[1] 過去のレンタル経験について

(1) レンタル経験の有無（表 2）

フォーマルウェアを過去に親族，知人，貸衣裳店などから，レンタルしたことがあるかどうかについて，「振り袖」ウェデング，白無垢，打掛け等の「結婚衣裳」「訪問着や付下げ」「喪服」「留袖」「パーティドレス」「冠婚葬祭用の洋服」の服種全部を対象としては，調査対象者の65.5%が「借りたことがある」としている。世代別では，「ヤング世代」の74.6%，「シニア世代」では56.5%であった。

しかし，レンタルの中でも，「結婚衣裳」は，基本的に 1 回限りのものであることから，「結婚衣裳」を除いて，先のレンタル経験者を抽出すると，「ヤング世代」は48.2%，「シニア世代」は40.9%となる。さらに独身時代しか着用しない「振り袖」も一過性のものとしてみるならば，「ヤング世代」39.5%，「シニア世代」38.3%となる。つまり，レンタルしたことのある者は，結婚衣裳や振り袖のみの場合，日常のフォーマルウェアだけの場合と様々

表 2　過去のレンタル　(%)

(人)	借りたことがある		
	全　体 (229)	ヤング (114)	シニア (115)
①調査服種全部の場合	65.5	74.6	56.5
②結婚衣裳を除く場合	44.5	48.2	40.9
③結婚衣裳と振り袖を除く場合	38.9	39.5	38.3

(注)　服種：振り袖，結婚衣裳，訪問着・付下げ，喪服，留め袖，パーティドレス，冠婚葬祭用の洋服，その他

である。

大義のレンタル，すなわち「自分では用意せず，他から借りる行為」には，確かに世代差が見られるが，「結婚衣裳」などを除く日常のフォーマルウェアに関しての「借りる行為」には，世代差はないと考えられる。

(2) レンタルした服種（表３）

「結婚衣裳」は，「ヤング世代」全体の６割以上，「シニア世代」では３割を占めている。「振り袖」も成人式には振り袖が定着している若い世代を反映して，「ヤング世代」のほうが割合が多い。また「喪服」は，世代比がほぼ同数であるのに対し，「留め袖」では「シニア世代」が「ヤング世代」の２倍近くも多く借りている。

表３　レンタルした服種　複数回答（%）

（人）	全体 (229)	ヤング (114)	シニア (115)
①振り袖	10.5	14.9	6.1
②結婚衣裳	46.7	63.2	30.4
③訪問着・付下げ	3.9	5.3	2.6
④喪服	8.3	7.9	8.7
⑤留め袖	21.4	14.9	27.8
⑥パーティドレス	5.7	10.5	0.9
⑦冠婚葬祭用の洋服	7.0	10.5	3.5
⑧その他	5.7	5.3	5.2

日本の嫁入り支度の習慣では，「留め袖」と「喪服」では，まず「喪服」を準備することと，「留め袖」の必要な時期は，社会的にもある年齢以上であるため，「シニア世代」のほうが当然多い結果になったと思われる。

他に「ヤング世代」には「パーティードレス」「冠婚葬祭用の洋服」も借りられており，「シニア世代」は主に和服系のものが，「ヤング世代」は洋服系のものが借りられる傾向がみられる。

(3) レンタルした理由（表４）

レンタルした理由①～⑨の項目に対して複数回答の結果，全服種を一括しての理由では，「持っていないので」を理由にする者が68.0%いる。そして「購入しても利用が少ないので」「購入すると高いので」が続いている。い

表4　レンタルした理由　　複数回答（%）

	服種の①～⑧のいずれかを借りた人	A ①振り袖か②結婚衣裳のみ借りた人		B ①振り袖か②結婚衣裳の他服種③～⑧を借りた人		C 服種③～⑧のみ借りた人(振り袖，結婚衣裳は借りていない人)	
（人）	(150)	ヤング (40)	シニア (21)	ヤング (34)	シニア (17)	ヤング (11)	シニア (27)
①持っていないので	68.0	72.5	66.7	79.4	64.7	72.7	48.1
②持っているがデザイン・柄が流行遅れ	6.7	—	4.8	8.8	23.5	9.1	3.7
③持っているが手入れ管理が大変	0.2	—	—	—	5.9	—	7.4
④持っているが持ち運ぶと荷物になる	4.7	—	—	8.8	5.9	9.1	7.4
⑤購入すると高いので	43.3	52.5	38.1	50.0	41.2	27.3	33.3
⑥購入しても利用が少ない	52.7	52.5	61.9	61.8	52.9	18.2	48.1
⑦購入すると保管場所がない	12.0	12.5	9.5	23.5	5.9	9.1	3.7
⑧いろいろな服を楽しみたい	26.7	7.5	—	23.5	23.5	9.1	11.7
⑨その他	0.6	7.5	—	5.9	23.5	—	—

ずれもフォーマルウェアの利用度が少ないために所有していないことが見受けられる。

さらに，同じ「持っていないので」でも，特殊なフォーマルウェアの「結婚衣裳」や「振り袖」のみを借りた者（A）は，両世代とも同じ割合である。しかし，一般的な服種③～⑧のみ借りたことのある場合（C）では，「持っていないので」が「ヤング世代」72.7%，「シニア世代」48.1%，また，「利用が少ない」では「ヤング世代」18.2%，「シニア世代」48.1%を示し，各々世代間に20%以上の差が開いている。このことは，「ヤング世代」はもともと持っていないだけの単純な理由であるが，「シニア世代」は持てる経済的能力はあっても，合理性を優先しているのではないかと考えられる。

以上より，過去の「レンタル」を「他から借りる行為」ということで考えた場合，当然「結婚衣裳」「振り袖」も要因の一つではあるが，服種の特殊性と，今後借りる服種との関わりより，以下の考察では「結婚衣裳」「振り

袖」を除き，日常のフォーマルウェアを中心としたレンタルについて分析した。以下，レンタル未経験者を「R. 未経験」，レンタル経験者を「R. 経験」とする。

[2] 今後のレンタルについて

(1) レンタル希望の有無（表5）

フォーマルウェアの今後のレンタル希望については，「借りるかもしれない（以下『R. 志向』）」65.1%，「借りるつもりはない（以下『R. 否定』）」34.9%の結果となり，以前のレンタル経験とは全く逆にレンタル志向の傾向が著しい。

年齢別では，「ヤング世代」の「R. 志向」は71.9%，「シニア世代」は58.3%であり，今後のレンタル希望は「ヤング世代」に，特に高いことがみられる。

表5　今後のレンタル希望　(%)

(人)	全体 (229)	年齢別 ヤング (114)	年齢別 シニア (115)
借りるかもしれない（「R. 志向」）	65.1	71.9	58.3
借りるつもりはない（「R. 否定」）	34.9	28.1	41.7

(2) レンタル経験別との関係（表6）

過去のレンタルの経験の有無は，これからのレンタル希望の有無とどのように関係しているであろうか。

この今後のレンタルについてを過去のレンタル経験別に分類した。「R. 経験」のグループでは，「R. 志向」に87.6%おり，そのまま今後もレンタルをしようと考えていることがわかる。「R. 経験」の「ヤング世代」では，9割以上が「R. 志向」であり，「シニア世代」でも81.8%を占める。

一方，「R. 未経験」だったグループは，「R. 志向」と「R. 否定」の二派に半分ずつ分かれ，やや「シニア世代」は「R. 否定」が多く，「ヤング世代」

表6　レンタル経験別との関係　(%)

(人)	過去のレンタル					
	R. 経験 (89)	ヤング (45)	シニア (44)	R. 未経験 (140)	ヤング (69)	シニア (71)
今後のレンタル						
R. 志向	87.6	93.3	81.8	50.7	58.0	43.7
R. 否定	12.7	6.7	18.2	49.3	42.0	56.3

の「R. 志向」も6割足らずである。つまり,「R. 未経験」は全般にレンタルに否定的であるのに対し,「R. 経験」では積極的なレンタルへの意志がみられる。

実際のレンタル経験から,将来のレンタル希望まで,「ヤング世代」は39.5%から71.9%,「シニア世代」は38.3%から58.3%へとレンタルへの志向が上昇している。同じ「ヤング世代」でも「R. 未経験」では,「シニア世代」とほとんど変わらない結果をみると,「ヤング世代」の「R. 経験」が積極的なレンタル行動を起こしているのではないかと言えよう。

補足として,「振り袖」か「結婚衣裳」のみをレンタルした人たち(表4のAのグループ)は,表7に示すように(a)「振り袖のみ」と(b)「振り袖と結婚衣裳のみ」のグループは,今後も借りる傾向があるが,(c)「結婚衣裳のみ」を借りた人の場合では,必ずしも今後他のフォーマルウェアを借りるとは言えない。

これは,現代ではたとえ「結婚衣裳」をレンタルしていても,ごく当たり

表7　「振り袖」「結婚衣裳」の借りた場合でのレンタル志向

(a)「振り袖のみ」の場合

(人)	ヤング	シニア
R. 志向	1	2
R. 否定	0	0

(b)「振り袖と結婚衣裳のみ」の場合

(人)	ヤング	シニア
R. 志向	8	0
R. 否定	1	2

(c)「結婚衣裳のみ」の場合

(人)	ヤング	シニア
R. 志向	16	9
R. 否定	14	8

表8　「R. 志向」の希望服種　　複数回答（%）

(人)	R. 志向			R. 経験			R. 未経験		
	(149)	ヤング (82)	シニア (67)	(78)	ヤング (42)	シニア (36)	(71)	ヤング (40)	シニア (31)
①訪問着・付下げ	10.1	11.0	9.0	14.1	16.7	11.1	5.6	5.0	6.5
②喪　服	28.9	34.1	22.4	28.2	28.6	27.8	29.6	40.0	16.1
③留め袖	55.0	43.9	68.7	59.0	40.5	80.6	50.7	47.5	54.8
④パーティドレス	24.8	31.7	16.4	25.6	38.1	11.1	23.9	25.0	22.6
⑤冠婚葬祭用の服装	25.5	29.3	20.9	28.2	35.1	19.4	22.5	22.5	22.6
⑥その他	8.7	11.0	6.0	7.7	9.5	5.6	9.9	12.5	6.5

前のこととし，「借りている」などと特別な意識など，借りる本人でさえ持っていない。「結婚衣裳」のレンタルは，現代の日常のフォーマルウェアのレンタルとは違った意味を持つことがわかる。

(3)　希望服種（表8）

「R. 志向」で，今後もし借りる場合の服種は，「留め袖」が55.0%と圧倒的に多く，次に多い「喪服」28.9%の2倍近い希望者がある。特に「シニア世代」では68.7%と，「シニア世代」の借りる他の服種に比べて著しく多い。「ヤング世代」は和服だけでなく，「パーティードレス」「冠婚葬祭用の洋服」を希望している人がいるように，洋服系の需要がみられる。さらに，「R. 経験」「R. 未経験」別では，「シニア世代」で多く必要とされる「喪服」も「R. 経験」で80.6%，「R. 未経験」では54.8%と20%の差がみられる。また「ヤング世代」の「R. 経験」には洋服系の希望が，「R. 未経験」では，「喪服」「留め袖」などの和服系の希望が高い。

希望する服種にも過去のレンタルの経験が反映されており，過去のレンタル経験で借りて有効に利用できた服を，さらに今後も借りたいという行動にでたことや，「ヤング世代」の「R. 未経験」はとりあえず最低限必要なものを挙げた結果の顕れだと考えられる。

5. フォーマルウェアに関する意識とレンタル行動

(1) フォーマルウェアに関する意識とレンタルとの関係

前項で，フォーマルウェアのレンタルには今後の意向と過去のレンタル経験とに関係があることが明らかになったが，これを図化したものが図1である。過去のレンタル経験別と今後の意向別の分類で，それぞれの条件ごとに「推進派」「改新派」「辞退派」「不必要派」と区分した。

ここでは，そのフォーマルウェアに関する意識とレンタル行動との関係の特徴を明らかにするために，27項目の意識調査について，①過去のレンタル経験別，②今後のレンタル意向別，③「推進派」「改新派」「辞退派」「不必要派」の組合せ別，④「推進派」「改新派」「不必要派」の年齢別（「辞退派」は回答数が少なく検定不可能）について，x^2検定を行った。結果は表9に示した通りである。

有意水準5％では，27項目中，過去のレンタル経験別に9項目，今後のレンタル意向別では11項目に有意差がみられる。しかし，有意水準1％では，

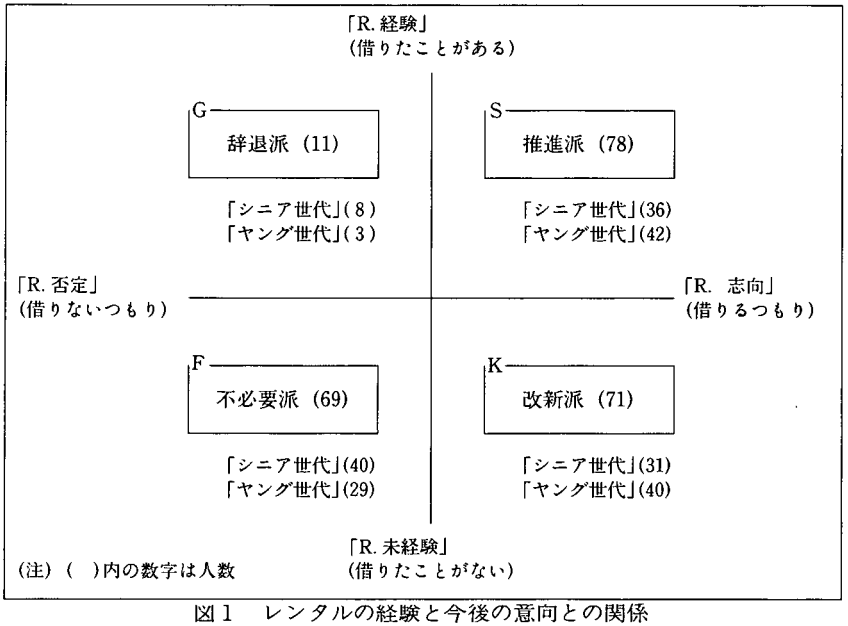

図1 レンタルの経験と今後の意向との関係

表9　意識調査における x^2 検定結果

	①過去のレンタル経験別（「R.経験」と「R.未経験」）	②今後のレンタル意向別（「R.志向」と「R.否定」）	③各グループの組合せ別						④各グループの年齢別		
			S「推進派」とF「不必要派」別	K「改新派」とF「不必要派」別	K「改新派」とS「推進派」別	G「辞退派」とS「推進派」別	G「辞退派」とK「改新派」別	G「辞退派」とF「不必要派」別	S「推進派」の年齢別	F「不必要派」の年齢別	K「改新派」の年齢別
(1)収納スペースを考え、購入することを思い留まる	＊＊	＊	＊＊								
(2)F.W.の保管は収納場所をとる				＊							
(3)保管が大変な物は、民間委託所（クリーニング店等）を利用したい										＊	
(4)レンタル（親類、知人、貸衣裳店など）を利用するのは経済的である	＊	＊＊	＊＊								
(5)管理や収納を考え、利用度の少ないものはレンタルにしたい	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	＊			＊			＊＊
(6)レンタルはいろいろな服を楽しむことができるので利用したい	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊		＊＊			＊	＊＊	
(7)レンタルを利用するのは気分的に抵抗がある	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊		＊				＊	
(8)レンタル料が高いので、貸衣裳店は利用しない		＊＊	＊＊	＊						＊	
(9)利用度が少ないF.W.を買うのは損だと思う											
(10)同じ用途のF.W.は1枚あればよい											
(11)着用する機会が少なくても、自分の物を買って着用したい	＊	＊＊	＊＊	＊＊						＊	
(12)高価な和服は財産価値がある											
(13)高価なF.W.は着られなくなっても持っていたい	＊＊	＊＊	＊＊	＊＊	＊						
(14)和服を着る機会があっても、洋服を着ることが多い		＊＊	＊	＊＊			＊				
(15)和服は着方や手入れが大変なので、着ないでしまう		＊		＊＊	＊＊		＊				
(16)自分の和服を知人、友人に貸してもよい											
(17)和服は財産の一部として子供などに譲りたい									＊	＊	
(18)伝統を大切にするためにも和服は必要なものである	＊										
(19)改まった席にはその場に応じた服装を心がけている								＊			
(20)和服を着ると気分が引立った感じになる											
(21)和服はF.W.としてしか着ない				＊	＊						
(22)和服を着ると気を使い、くたびれる		＊＊	＊	＊＊							
(23)洋服のF.W.のサイズは、自分の体型の変化を考えて買う	＊										
(24)和服は体型や年齢が変化しても着られるので合理的である											
(25)愛着のある衣服は処分できない											
(26)F.W.は資源的な面からみると非合理的なものである											
(27)衣生活の中でF.W.はなくてはならないものである											

（注）「F.W.」は，「フォーマルウェア」のことである

＊　P＜0.05
＊＊P＜0.01

表10 「推進派」「不必要派」の意識調査の各項目における相対度数 (%)

項目内容	推進派 (78人) 不必要派(69)	そうである	ややそうである	ややそうでない	そうでない	x^2による有意性の検定
(1)収納スペースを考え、購入することを思い留まることがある。	推進派 不必要派	26.9 8.7	35.9 29.0	14.1 13.0	23.1 49.3	＊＊
(2)フォーマルウェアの保管は収納場所をとる。	推進派 不必要派	29.5 23.2	44.9 34.8	12.8 17.4	12.8 24.6	
(3)保管が大変な物は、民間委託所（クリーニング店等）を利用したい。	推進派 不必要派	16.7 18.9	24.3 10.1	15.4 15.9	43.6 55.1	
(4)レンタル（親類、知人、貸衣裳店など）を利用するのは経済的である。	推進派 不必要派	64.1 34.8	26.9 33.3	5.1 17.4	3.9 14.5	＊＊
(5)管理や収納を考え、利用度の少ないものはレンタルにしたい。	推進派 不必要派	59.0 33.3	29.5 16.0	5.1 20.3	6.4 30.4	＊＊
(6)レンタルはいろいろな服を楽しむことができるので利用したい。	推進派 不必要派	33.3 13.0	44.9 18.9	11.5 27.5	10.3 40.6	＊＊
(7)レンタルを利用するのは気分的に抵抗がある。	推進派 不必要派	9.0 44.9	19.2 26.1	25.6 11.6	46.2 17.4	＊＊
(8)レンタル料が高いので、貸衣裳店は利用しない。	推進派 不必要派	7.7 23.2	17.9 30.4	38.5 18.8	35.9 27.5	＊＊
(9)利用度が少ないフォーマルウェアを買うのは損だと思う。	推進派 不必要派	29.5 14.5	32.0 29.0	24.4 27.5	14.1 29.0	
(10)同じ用途のフォーマルウェアは１枚あればよい。	推進派 不必要派	33.3 29.0	32.1 31.9	23.1 24.6	11.5 14.5	
(11)着用する機会が少なくても、自分の物を買って着用したい。	推進派 不必要派	18.0 50.7	39.7 31.9	26.9 4.4	15.4 13.0	＊＊
(12)高価な和服は財産価値がある。	推進派 不必要派	15.4 30.4	17.9 17.4	29.5 26.7	37.2 27.5	
(13)高価なフォーマルウェアは着られなくなっても持っていたい。	推進派 不必要派	7.7 34.8	15.4 23.2	25.6 13.0	51.3 29.0	＊＊
(14)和服を着る機会があっても、洋服を着ることが多い。	推進派 不必要派	66.7 49.3	25.6 26.1	6.4 10.1	1.3 14.5	＊
(15)和服は着方や手入れが大変なので、着ないでしまう。	推進派 不必要派	54.5 39.1	26.0 24.6	6.5 17.4	13.0 18.8	
(17)和服は財産の一部として子供などに譲りたい。	推進派 不必要派	28.2 44.9	32.1 30.4	19.2 13.1	20.5 11.6	
(18)伝統を大切にするためにも和服は必要ものであると思う。	推進派 不必要派	43.6 55.1	26.9 33.3	15.4 5.8	14.1 5.8	
(19)改まった席にはその場に応じた服装を心がけている。	推進派 不必要派	69.2 75.4	28.2 24.6	1.3 0.0	1.3 0.0	
(22)和服を着ると気を使い、くたびれる。	推進派 不必要派	51.3 26.1	29.5 37.7	10.2 21.7	9.0 14.5	＊
(24)服は体型や年齢が変化しても着られるので合理的である。	推進派 不必要派	39.7 50.7	47.5 34.8	6.4 8.7	6.4 5.8	
(26)フォーマルウェアは資源的な面からみると非合理的なものである。	推進派 不必要派	20.5 8.7	38.5 40.6	23.1 31.9	17.9 18.8	
(27)衣生活の中でフォーマルウェアはなくてはならないものである。	推進派 不必要派	42.3 42.0	39.7 36.2	16.7 17.4	1.3 4.4	

＊ $P<0.05$
＊＊ $P<0.01$

前者には5項目，後者には9項目に有意差があり，過去のレンタル経験より，現在のこれからに対する意識がレンタル行動を決定付ける傾向がみられる。

図1で示した各グループの組合せ別での検定では，「推進派」と「不必要派」で，有意水準5％で10項目，「改新派」と「不必要派」で11項目に有意差がある。特に，レンタル行動に直接関わる項目(4)～(8)においては，「推進派」と「不必要派」で，すべて有意水準1％で有意差があり，著しく両者間で意識の違いがある。

また，「推進派」「不必要派」「改新派」それぞれのグループで有意水準5％で年齢別に検定しても「推進派」2項目，「不必要派」6項目，「改新派」1項目しか有意差が認められなかったことから，意識の年齢別の影響は少ないと考えられる。

以上より「推進派」と「不必要派」のグループ間に顕著な差がみられることから，この両者について具体的に考察していくことにする。

(2) 「推進派」と「不必要派」の意識の相違

両者間の有意差のある項目内容は，収納管理，レンタルに対する態度，フォーマルウェアの所有，和服の価値など多岐に渡る。両者間に有意差のあったものと，有意差はなかったが度数に特徴のあったものについて各項目回答の相対度数を示し（表10），以下比較考察した。

「推進派」は，フォーマルウェアの収納は場所を取るものと思っており，購入することも消極的である。そのためか，レンタルをすることは大変経済的で，利用の少ないものはレンタルの方がよいと考えている傾向がみられる。さらに，レンタルをすれば，いろいろな服が楽しめるという考え方もある。それだけレンタルに対する抵抗感はなく，レンタル料のことなどより，逆に自分で利用度の少ないものを買うほうが損であると考えている。また，高価な和服にもそれほど財産価値を感じていず，着られなくなった和服には執着せずに，ほとんど和服を着る機会があっても洋服を着てしまい，和服を着用することにくたびれるようである。

「不必要派」では「推進派」とは逆に，収納管理について「推進派」より抵抗はない。レンタルについては，30%余りは経済的とは思っていず，またレンタルで服を楽しむということも考えてはいない。基本的に，70%はレンタルをすることに抵抗感を持っている。たとえ着用する機会がなくても，自分の物を買って持っていたいという思いがあり，また和服など子供に譲りたいとも考えている人が多い。特に，「不必要派」では90%近くが伝統という点からも和服の意味を捉えているようである。

さらに，度数に特徴のあった内容項目をまとめると，「推進派」「不必要派」とも，収納が大変と思っていても，民間委託所までは考えていない。そして，同じ用途のフォーマルウェアは1枚あればよいと考える一方，T.P.O. に応じた服装も心がけてようとしている。両者とも85%以上が，和服は体型や年齢が変化しても着られるので合理的と思っている。しかし，先の「推進派」では和服よりは洋服を選択し，また，和服を着てもくたびれてしまうとしている。つまり，意識の上では十分和服の意味も認めているが，実際の生活ではそれが生かされていないことが示される。

また，「(26)フォーマルウェアは資源的な面から非合理的である」では，「ややそう思う」が約40%いるが，いずれも回答が分散されている。しかし「(18)伝統を大切にするためにも和服は必要である」に70%以上，「(27)衣生活のなかでフォーマルウェアはなくてはならないものである」においては，80%が肯定している。この結果をみると，和服と同様にフォーマルウェアというもの自身の存在が本当に必要なのか，無駄ではないか，という疑問を抱えながらも，先の T.P.O. を心がけるという回答が示すように，社会の伝統，習慣という規範の中に生活している現実を優先している。

「推進派」も「不必要派」も社会規範，T.P.O. などに対する根本的な考え方は，余り違わない。レンタル行動は，世代差より個人のパーソナリティによるものと考えられる。それは，その人の年齢によるのではなく，その人がおかれている環境，つまり，今まで生活してきた経歴，現在の住まいなどの違いから，フォーマルウェアをどう活用するか，準備するかという行動が異

なってくるのではないだろうか。それが，今回取り上げたレンタル行動に顕著にみられたと言えよう。

6. 住空間とレンタル行動との関係

前項で，フォーマルウェアのレンタル意識は，収納スペースとの関わりがあることが示された。ここでは，間取りの現状，収納状況の点からレンタル行動についてみていきたい。

過去のレンタル経験別の割合を間取り別（表11－(1)）でみると，現在の間取りが小さくても，レンタルをしたことがない者が約60％前後を示している。ところが，将来のレンタル意向別（表11－(2)）においては，「R. 否定」は間取りが大きくなる程，レンタルを希望しない割合が増し，逆に「R. 志向」では間取りが小さい程，レンタル希望者が多くなっており，有意水準５％において有意差がみられた。

実際の収納スペースとの関係（表11－(3)）では，「R. 否定」は「どうにか納まる」に50.0％を占め，次に「狭くて困る」が続く。ところが，「R. 志向」では41.0％の「狭くて困る」が一番多い結果となっている。また，収納にゆとりのあるものは，「ややゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせても，「R. 否定」6.2％，「R. 志向」2.6％と，いずれもゆとりがほとんどない状況にある。収納スペースにおいても，「R. 否定」と「R. 志向」の間には，有意水準５％において有意差があったが，「R. 志向」は「R. 否定」より収納に不自由している状況が窺える。

間取りや収納状況との関係は，現在の生活環境そのものとの繋がりであり，そのために同じレンタル行動にしても，過去の「経験」とこれからの「意向」とでは，著しくその対応の違いが顕れているのだと思われる。間取りが小さいとその分，収納スペースも狭くなり，ものが収納しきれないようである。

フォーマルウェアは，衣服でもアンダーウェアのように，必ず個人の所有であるという必要がなく，さらに毎日の生活にも関係ない。しかし社会生活をする上では欠かせないものである。それがレンタルという形でも十分対応

表11　住空間とレンタル行動との関係

(1)　過去のレンタル経験別との関係　(%)

	(人)	R. 経験 (38.9%)	R. 未経験 (61.1%)
間取り	(229)		
2DK 以下	(25)	40.0	60.0
3DK, 2LDK	(79)	40.5	59.5
4DK, 3LDK	(45)	46.7	53.3
5DK, 4LDK	(38)	34.2	65.8
5DK 以上	(42)	31.0	69.0

$x_0^2=2.71$

$x^2\ (0.05)=9.49$

(2)　今後のレンタル意向別との関係　(%)

	(人)	R. 志向 (65.1%)	R. 否定 (34.9%)
間取り	(229)		
2DK 以下	(25)	72.0	28.0
3DK, 2LDK	(79)	72.2	27.8
4DK, 3LDK	(45)	68.9	31.1
5DK, 4LDK	(38)	63.2	36.8
5DK 以上	(42)	45.2	54.8

5％有意水準で有意

$x_0^2=9.89$

$x^2\ (0.05)=9.49$

(3)　収納場所との関係　(%)

	(人)	狭くて困る	狭くてやや困る	どうにか納まる	ややゆとりがある	ゆとりがある
R. 志向	(149)	41.0	24.8	31.6	1.3	1.3
R. 否定	(80)	26.3	17.5	50.0	3.7	2.5

5％有意水準で有意

$x_0^2=10.84$

$x^2\ (0.05)=9.49$

できる現在の衣生活の社会化に，ちょうどフォーマルウェアという日常的でないものの存在が，レンタル行動化という形で反映されてるのではないだろうか。

7. 終わりに

生活の合理化を考える指針としてフォーマルウェアとレンタル行動について検討した。

調査結果のまとめとして，

①日常のフォーマルウェアの「レンタル」と言う考え方には，世代差よりむしろ本人の価値観によるところが大きい。

②フォーマルウェアのレンタル化は，各々の生活環境による部分が大きい。ここでは住空間との間に関係があった。

③フォーマルウェアに対する意識は，社会規範を考慮に入れつつ，合理的に生かせる方法を模索している。

フォーマルウェアのレンタル化は，この場合3つの要因がある。一つはフォーマルウェアの社会的必要性，二つめは，それに対応する人々の生活環境とパーソナリティ，そして最後に消費者ニーズへのサービス産業の発展である。

意識調査で示したように，現在ではフォーマルウェアに対する意味を模索しつつも，実際の社会規範にあまり外れないようにしていたい気持ちがある。しかし，使用頻度が少ないこと，家の中で置き場所に困っていることなどの現状から，解決策の一つとしてレンタルという方法が台頭したとみなせる。

そして，サービス産業側では，身近なCD，ビデオテープなどの他，育児用品（ベビーベッド，ベビーカーなど），旅行用品，珍しいところでは，寂しい一人（若しくは二人）暮しの高齢者のため，ある曜日に子供夫婦と孫に扮した「レンタル家族」という疑似家族を斡旋し，一家団欒を提供している。サービス産業の成熟化は，人々の欲求を満たすことに意義がある。

人々の生活は，その生活者自身の環境と価値観に反映されている。フォーマルウェアに関しては，かつて嫁入り道具として親が娘に冠婚葬祭用の和服を一通り揃えて持たせた時代から，現在のレンタルをしてまでもやはり世間の流れに合わせるという現実の生活と伝統・社会規範の間で，合理化，簡略

化，簡素化へと動いてきている。

また，その変化は，生活者を取り巻く環境に多分に影響され，各生活要因の違いによって生じてくると言えよう。

今後，生活の合理化は益々進んでいくと考えられる。この現象を捉えるには，さらに各生活要因のフィルターを広げ，多角的視野から検討する必要がある。

本報告をまとめるにあたり，ご指導頂きました共立女子大学の小林茂雄教授，文化女子大学の盛田真千子助教授，仙台白百合短期大学の千葉よう子講師，ならびにコンピュータにおける統計処理に関してご指導頂きました本学の岩城宏明講師に厚くお礼申し上げます。

注

1) 井上サヨ，長船美根子「フォーマルウェアのルール」『衣生活研究』関西衣生活研究会 Vol. 14 No. 9, 10 1988 18頁
2) 井上健一「紳士のフォーマルウェア」『衣生活研究』関西衣生活研究会 Vol. 14 No. 9, 10 1988 31頁
3) 市場調査第5本部『生活文化産業白書』矢野経済研究所 1991 561～567頁

（うちだ なおこ 本学助手・家庭生活科服飾研究室）